

田中三千雄：細経超音波プローブを用いた胃癌の深達度診断。第70回日本胃癌学会，1998，6，東京。

- 12) 折原正周，若林泰文，宮元 歩，中谷敦子，五十嵐雅秀，田中三千雄，渡辺明治：Helicobacter pylori感染の胃粘膜リン脂質とその脂肪組成に及ぼす影響。第83回日本消化器病学会総会，1997，4，名古屋。（1997年度追加）
- 13) 中林美奈子，廣田久美子：住民のヘルスニードとインターネットを活用した保健サービスの展望（1）。第57回日本公衆衛生学会，1998，10，岐阜。
- 14) 廣田久美子，中林美奈子：住民のヘルスニードとインターネットを活用した保健サービスの展望（2）。第57回日本公衆衛生学会，1998，10，岐阜。
- 15) 松田美千代，澤田愛子，松井祥子，小林 正：富山医科薬科大学病院における在宅酸素療法（HOT）の現状。北陸呼吸ケア研究会 第7回富山会，1998，8，富山。
- 16) 松田美千代，成瀬優知：脳卒中患者の歩行自立度の変化とその変化に関わる要因。第57回日本公衆衛生学会，1998，10，岐阜。

◆ その他

- 1) 澤田愛子：アウシュヴィッツ生還者の証言。富山医科薬科大学バイオエシックス研究会講演会，1998，4，富山。
- 2) 澤田愛子：医療とインフォームド・コンセント。武田薬品富山営業所研修会，1998，9，富山。
- 3) 澤田愛子：看護と倫理。富山県糖尿病ナース研修会，1998，11，富山。
- 4) 田中三千雄：編集後記。消化器内視鏡 10：132，1998
- 5) 田中三千雄：胃の病気 ーどうするのか。北日本文化センター健康セミナー。1998，10，富山。
- 6) 田中三千雄：特別講演・胃がんと食生活。富山県地区別在宅栄養士実技研修会，1998，10，富山。
- 7) 中林美奈子：らくらく介護体験。「富山県国民健康保険連合会健康づくり事例集」，41-157，1998。
- 8) 中林美奈子：身体の清潔。「介護手引書 家族介護（第2版）」，富山県社会福祉協議会編，3-26，1998。
- 9) 中林美奈子：基本介護技術。富山県福祉カレッジホームヘルパー養成研修会，1998，7，富山。
- 10) 中林美奈子：家庭訪問の評価について。富山県福祉カレッジ在宅介護指導者研修会，1998，8，富山。
- 11) 中林美奈子：観察と記録。富山県福祉カレッジホームヘルパー現任研修会，1998，7，富山。

臨 床 看 護 学

成人看護学(外科系)研究室

教 授	田 澤 賢 次
助 教 授	川 西 千 恵 美
助 手	安 田 智 美
助 手	小 林 祐 子
助 手(前)	八 塚 美 樹
助 手(前)	小 田 真 由 美

◆ 著 書

- 1) 田澤賢次，竹森 繁，新井英樹：人工肛門造設時の縫合。臨床外科（増刊号）53（11）：277-280，医学書院，東京，1998。
- 2) 田澤賢次，斎藤智裕：創傷治療総論。「創傷管理と治療システム」田澤賢次監修，1-12，金原出版，東京，1998。
- 3) 田澤賢次，山本克弥：スキンケアからみた皮膚保護剤。「皮膚保護剤とストーマスキンケア」田澤賢次監修，7-16，金原出版，東京，1998。
- 4) 田澤賢次，安田智美：皮膚保護剤の薬理作用。「皮膚保護剤とストーマスキンケア」田澤賢次監修，51-62，金原出版，東京，1998。
- 5) 田澤賢次：外的環境とスキンケア。「皮膚保護剤とストーマスキンケア」田澤賢次監修，68-74，金原出版，東京，1998。
- 6) 田澤賢次，沼田 悟：皮膚保護剤の将来と理想像。「皮膚保護剤とストーマスキンケア」田澤賢次監修，68-74，金原出版，東京，1998。
- 7) 川西千恵美：下腿骨折患者の看護。「ひとりで学べるナースングプロセス 成人・老年編①」，メヂカルフレンド社編集部編，274-283，メヂカルフレンド社，東京，1998。
- 8) 田澤賢次，大西康晴，濱木育夫：肝転移，「癌転移」渡辺 寛，清木元治編集，235-246，医薬ジャーナル社，東京，1998。

◆ 原 著

- 1) Tazawa K., Ohkami H., Yamashita I., Ohnishi Y., Saito T., Okamoto M., Masuyama K., Yamazaki K., Takemori S., Saito M. and Arai H.: Anticarcinogenic and/or antimetastatic action of apple pectin in experimental rat colon carcinogenesis and on hepatic metastasis rat model. In Functional Foods for Disease Prevention I: Fruits, Vegetables, and Teas (ACS SYMPOSIUM SERIES 701), by Shibamoto T., Terao J.,

- and Osawa T. (Eds.), 96-103, American Chemical Society, Washington, 1998.
- 2) Wada S., Tazawa K., Furuta I., Takemori S., Minamimura T. and Nagae H.: Application of hyperthermia using dextran magnetite complex(DM) for head and neck cancer -the properties of heated normal tongue in golden hamster-. *Jpn. J. Hyperthermic Oncol.* 14(3):197-205, 1998.
 - 3) Kawanishi C.: Prolongation of repositioning interval in the night induces comfortable sleep. *J. Kochi Women's University Academy Nurs.* 23(1):46-50, 1998.
 - 4) 田澤賢次, 半明敬子, 老田尚子, 水本 淳, 並川宏英, 大上英夫, 斎藤智裕, 山崎一麿, 岡本政広, 小松かつ子, 濱木育夫: アップルペクチンの大腸癌発生抑制—特に, エステル化度と活性酸素抑制からの検討—. *消化器癌の発生と進展* 10: 141-144, 1998.
 - 5) 小田真由美, 末村真紀, 渡辺美智子, 八塚美樹, 安田智美, 小林祐子, 川西千恵美, 田澤賢次, 山本克弥, 竹森 繁, 新井英樹: 皮膚保護剤貼付部の皮膚温度および血流量の変化—特に, 皮膚保護剤別による皮膚反応性の違い—. *日本ストーマ学会誌* 14(1): 13-20, 1998.
 - 6) 水上由紀, 太田かの子, 畑野亜貴子, 安田智美, 八塚美樹, 小林祐子, 川西千恵美, 田澤賢次, 中林千代子, 山本克弥, 竹森 繁, 新井英樹: 皮膚保護剤の物性と機能の研究—特にpH値, 水分吸収, 水耐性, 緩衝作用について—. *日本ストーマ学会誌* 14(2): 23-32, 1998.
- ◆ 総 説
- 1) 田澤賢次: 大腸がんのリスクファクターと予防法. *からだの科学* 199: 51-55, 1998.
 - 2) 田澤賢次, 竹森 繁, 山本克弥, 安田智美: 閉塞性ドレッシングの理論とサイトカイン. *Biomedical Perspectives* 7(1): 53-59, 1998.
 - 3) 田澤賢次, 大上英夫, 大西康晴, 斎藤智裕, 山本克弥, 増山喜一, 竹森 繁, 新井英樹: 食品成分による大腸癌の予防. *日本外科学会誌* 99(6): 368-372, 1998.
 - 4) 田澤賢次: 食品成分による大腸癌発生予防と肝転移制御. *富山医薬大医誌* 11(1): 50-55, 1998.
 - 5) 田澤賢次, 安田智美, 小林祐子, 水上由紀, 川西千恵美, 山本克弥, 竹森繁, 新井英樹: ストーマ管理—特にストーマ周囲皮膚のスキンケアのあり方—. *総合臨床* 47(11): 2943-2948, 1998.
 - 6) 田澤賢次: 自然順応型の食生活のあり方. *キッチン・キトサン協会誌* 43: 15-18, 1998.
 - 7) 田澤賢次, 竹森 繁: Dextran magnetite (DM) 粒子を用いる誘導加温法. *日本磁気菌科学会雑誌* 7(1): 4-8, 1998.
 - 8) 田澤賢次: 食物繊維の腸管内での作用と発癌との関連. *PRACTICAL ONCOLOGY* 11(4): 15-17, 1998.
 - 9) 安田智美, 田澤賢次: ストーマ周囲皮膚のスキンケア. *消化器外科NURSING* 3 (秋季増刊): 1160-1172, 1998.
- ◆ 学会報告
- 1) 山本克弥, 田澤賢次, 大西康晴, 斎藤智裕, 増子 洋, 竹森 繁, 新井英樹, 佐伯俊雄: クローン病合併痔瘻にたいするクシャラ・ストトラによる治療成績. 第51回日本消化器外科学会, 1998, 2, 東京.
 - 2) 水上由紀, 太田かの子, 畑野亜貴子, 瀬川美由紀, 永富 涙, 八塚美樹, 川西千恵美, 田澤賢次, 安田智美, 中林千代子, 山本克弥, 竹森 繁, 新井英樹: 各種皮膚保護剤の物性と機能の研究(1) —特にpH値, 水分吸収, 水耐性について—. 第15回日本ストーマリハビリテーション学会, 1998, 2, 横浜.
 - 3) 安田智美, 水上由紀, 畑野亜貴子, 太田かの子, 山本克弥, 西出 薫, 竹森 繁, 新井英樹, 寺垣秀山, 田澤賢次: 吸水時間・緩衝作用・貼付試験による剥離力と形状変化からみた皮膚保護剤の変化. 第15回日本ストーマリハビリテーション学会, 1998, 2, 横浜.
 - 4) 安田智美: ストーマ近接部皮膚のスキンケア. 第4回ストーマリハビリテーション・フォーラム, 1998, 2, 東京.
 - 5) 八塚美樹, 小田真由美, 半明敬子, 田中愛子, 川西千恵美, 田澤賢次: 芳香剤, 薬用入浴剤, 温湯足浴のサーモグラフィによる皮膚温の経時的変化. 第11回日本看護研究学会近畿, 北陸, 中国, 四国地方会, 1998, 3, 岡山.
 - 6) 川西千恵美: 科学性を追求する看護研究. 第11回日本看護研究学会近畿, 北陸, 中国, 四国地方会(シンポジウム), 1998, 3, 岡山.
 - 7) 田澤賢次, 新井英樹, 竹森 繁, 南村哲司, 坂本 隆, 塚田一博: Smooth muscle implanted neoanus-operation with the preservation of subcutaneous part of external anal sphincter. 第98回日本外科学会総会(シンポジウム), 1998, 4, 東京.

- 8) Tazawa K., Yamamoto K., Masuko H., Saeki T., Saito T., Ohnishi Y., Takemori S., Arai H. and Tukada K.: Management of anal fistula in Crohn's disease. 17th Biennial Congress of the International University Colon and Rectum Surgeons, 1998, 6, Malmo, Sweden.
- 9) Takemori S., Tazawa K., Arai H., Minamimura T., Yamazaki K., Sakamoto T. and Tukada K.: A study of surgical treatment for radiation enteritis. 17th Biennial Congress of the International University Colon and Rectum Surgeons, 1998, 6, Malmo, Sweden.
- 10) Nishide K., Yasuda T., Yamamoto K., Hanmyou K., Oda M., Nakabayashi C., Minamimura T., Takemori S., Arai H. and Tazawa K.: Can a swelling part in the skin barrier serve for a yardstick on replacement? (1)-Characteristics in physiological function of skin and the structure of skin surface-. 12th Biennial Congress of the World Council of Enterostomal Therapists, 1998, 6, Brighton, UK.
- 11) Yasuda T., Yamamoto K., Mizukami Y., Tanaka A., Takayanagi T., Sasano M., Yatsuzuka M., Nishide K., Teragaki S., Kawanishi C. and Tazawa K.: Can a swelling part in the skin barrier serve for a yardstick on replacement? (2)- The changes of the bacteriostatic action on the skin barriers-. 12th Biennial Congress of the World Council of Enterostomal Therapists, 1998, 6, Brighton, UK.
- 12) 高柳智子, 川西千恵美: 特別養護老人ホームにおける救急対応の現状と看護婦の意識. 第8回北陸救急医学会, 1998, 6, 金沢.
- 13) 尾高大輔, 川西千恵美, 笹野京子: 救急医療の現場で看護者が自己判断で行う医療行為. 第8回北陸救急医学会, 1998, 6, 金沢.
- 14) 高柳智子, 川西千恵美, 田澤賢次: 特別養護老人ホームにおける医療の現状. 第23回日本看護研究学会, 1998, 7, 弘前.
- 15) 橋本佳代子, 川西千恵美, 宮林千鶴子: 手術後の患者が疼痛時に看護者に望むケア. 第23回日本看護研究学会, 1998, 7, 弘前.
- 16) Kawanishi C. and Sasano K.: Nursing intervention and defecation state the neoanus-operated patients. Third International Nursing Research Conference, 1998, 9, Tokyo.
- 17) Sasano K. and Kawanishi C.: Coping behavior to pain with rheumatoid arthritis. Third International Nursing Research Conference, 1998, 9, Tokyo.
- 18) 田澤賢次, 半明敬子, 田中愛子, 並川宏英, 大上英夫, 斎藤智裕, 山崎一磨, 岡本政広, 山下巖, 竹森 繁: アップルペクチンの大腸癌抑制—抽出オリゴ糖による活性酸素抑制—. 第57回日本癌学会総会, 1998, 9, 横浜.
- 19) 田澤賢次, 半明敬子, 田中愛子, 老田尚子, 水本 淳, 並川宏英, 大上英夫, 斎藤智裕, 山崎一磨, 岡本政広: アップルペクチンの大腸癌発生抑制—特に抽出オリゴ糖による活性酸素抑制からの検討—. 第9回日本消化器癌発生学会, 1998, 9, 宇都宮.
- 20) 大上英夫, 田澤賢次, 山本克弥, 斎藤智裕, 岡本政広, 半明敬子, 並川宏英, 瀬尾元一郎, 塚田一博: アップルペクチンおよびビオスリー併用投与によるAzoxymethane誘発ラット大腸腫瘍に対する効果—盲腸内細菌叢および活性酸素抑制からの検討—. 第57回日本癌学会総会, 1998, 9, 横浜.
- 21) Tazawa K., Hanmyou K., Namikawa H., Mizumoto J., Ohkami H., Saito T., Okamoto M., Ichita J., Matsue H. and Kazaharu K.: Inhibitory effects of apple pectin in colon carcinogenesis-Evaluation of the radical scavenging activity of pectic oligosaccharide. The 2nd International Symposium on Natural Medicine and Microflora, 1998, 10, Tokyo.
- 22) Namikawa H., Tazawa K., Mizumoto J., Hanmyou K. and Oida N.: Evaluation of the radical scavenging activity of Genmai Koso(Brown rice fermented by Aspergillus). The 2nd International Symposium on Natural Medicine and Microflora, 1998, 10, Tokyo.
- 23) Hanmyou K., Oida N., Namikawa H., Mizumoto J., Tanaka A., Saito T., Tazawa K., Komatu K. and Sakamoto K.: Evaluation of the radical scavenging activity of Grifola Frondosa(Maitake). The 2nd International Symposium on Natural Medicine and Microflora, 1998, 10, Tokyo.
- 24) 田澤賢次, 新井英樹, 竹森 繁: Smooth muscle implanted neoanus-operation with the pres-

- ervation of subcutaneous part of external anal sphincter. 第4回日中大腸肛門病学会交流会, 1998, 10, 福岡.
- 25) 竹森 繁, 新井英樹, 南村哲司, 山崎一磨, 坂本 隆, 塚田一博, 田澤賢次: 外科的治療を必要とした放射線性腸炎14例の検討. 第53回日本大腸肛門病学会, 1998, 10, 福岡.
 - 26) 新井英樹, 山崎一磨, 岡本政広, 南村哲司, 大上英夫, 竹森 繁, 永瀬敏明, 坂本 隆, 田澤賢次, 塚田一博: 超低位直腸切除術に対する腸管平滑筋を利用した新肛門管再建術. 第53回日本大腸肛門病学会, 1998, 10, 福岡.
 - 27) 山本克弥, 田澤賢次, 佐伯俊雄, 竹森 繁, 新井英樹: クシャラ・スートラによる痔瘻の治療—その合併症と肛門内圧について—. 第53回日本大腸肛門病学会, 1998, 10, 福岡.
 - 28) Tazawa K., Hanmyou K., Namikawa H., Mizumoto J., Oida N., Ohkami H., Saito T., Okamoto M. and Yamashita I.: Inhibitory effects of apple pectin in colon carcinogenesis-Evaluation of the radical scavenging activity of pectic oligosaccharide. 日本BRM学会学術集会総会, 1998, 11, 東京.
 - 29) 田澤賢次, 並川宏英, 老田尚子, 半明敬子, 水本 淳, 伊藤佳代子, 八塚美樹, 前田浩明: 第3回 Japanese Society for Food Factors学術集会 (JSOFF), 1998, 12, 東京.
 - 30) 並川宏英, 田澤賢次, 水本 淳, 半明敬子, 老田尚子, 田中愛子, 小池 潤: 玄米酵素の活性酸素消去能. 第3回 Japanese Society for Food Factors学術集会 (JSOFF), 1998, 12, 東京.
- ◆ その他
- 1) 田澤賢次: 痔創は心で癒すことができる—生体はホルモンのバランスやところに左右される・痔創と癒しのメカニズム—特集床ずれ—. KAIGO 84: 30, 1998.
 - 2) 田澤賢次: 大腸がんの予防法—食事でがん予防, 食物繊維は多くとる—. 健康かながわ 360: 1, 1998.
 - 3) 田澤賢次: ペクチンを効率よくとれるリンゴジャムは活性酸素の働きを抑え大腸がんを予防. 安心 11: 38-39, 1998.
 - 4) 田澤賢次: 第11回北陸ストーマ研究会レポート. 消化器外科NURSING 3(11): 50-52, 1998.
 - 5) 田澤賢次: 平成9年度科学研究費補助金(一般研究C: 06671189) 研究成果報告書. 1-27, 1998.
 - 6) 田澤賢次, 大上英夫, 大西康晴, 岡本政広, 斎藤智裕, 山下 巖: 食物繊維による大腸癌発生子防の研究—特にアップルペクチンの大腸癌発生子防と肝転移予防メカニズムの解析—. 平成8年度和漢薬・バイオテクノロジー受託研究成果報告書. 20-25, 1998.
 - 7) 田澤賢次, 半明敬子, 田中愛子, 並川宏英, 老田尚子, 水本 淳, 大上英夫, 斎藤智裕, 大上英夫, 山崎一磨, 大西康晴, 竹森 繁, 済木育夫, 門田重利, 小松かつ子: 平成9年度和漢薬・バイオテクノロジー受託研究成果報告書. 13-22, 1998.
 - 8) 川西千恵美, 八塚美樹: 頸髄損傷患者の看護の展開. クルニカルスタディ 19(6): 78-83, 1998.
 - 9) 野上悦子, 川西千恵美: 食道癌患者の看護の展開. クルニカルスタディ 19(6): 36-41, 1998.
 - 10) 川西千恵美, 笹野京子: 大腿骨頸部骨折患者のリハビリテーション看護. 看護技術 44(10): 60-65, 1998.
 - 11) 安田智美, 堀 真由美, 高倉裕美, 得能千鶴子, 細岡居香, 寺垣秀山: 日本語版プレーデンスケールと創部のアセスメントを取り入れたケア評価表を用いた褥瘡ケアの実践. 臨床老年看護 5(5): 51-60, 1998.
 - 12) 田澤賢次: アップルペクチンとAOM発癌抑制. 食物繊維関連物質によるがん予防ミーティング (招請講演), 1998, 1, 箱根.
 - 13) 田澤賢次: 自然治癒メカニズムから見た創傷管理. 名古屋大学医学部第二外科学教室学術講演会 (特別講演), 1998, 1, 名古屋.
 - 14) 田澤賢次: クシャラ・スートラによるクローン病に伴う痔瘻治療. 第一回大阪市立大学腸疾患若手勉強会 (特別講演) (大阪市立大学第一外科), 1998, 1, 大阪.
 - 15) 田澤賢次: 水と健康. 太陽の会3月定例総会 (特別講演), 1998, 3, 富山.
 - 16) 田澤賢次: 食生活と病気—がんの予防—. 朝日町健康づくりボランティア連絡協議会総会 (招請講演), 1998, 6, 朝日町.
 - 17) 田澤賢次: 自然治癒メカニズムから見た創傷管理. 第4回神奈川外科フォーラム (特別講演), 1998, 7, 横浜.
 - 18) 田澤賢次: 癌と肥満予防. 平成10年度富山県小杉町職員研修会 (特別講演), 1998, 9, 小杉町.
 - 19) 田澤賢次: ストーマの過去・現在・未来. 第14回北陸ストーマ研究会 (特別講演), 1998, 9, 金沢.
 - 20) 田澤賢次: 活性酸素とマイナスイオン. 全国マイナスイオン医学会大会 (招請講演), 1998, 12,

- 東京.
- 21) 田澤賢次：自然順応型の食生活のあり方。'98 キッチン・キトサン協会東京大会（特別講演），1998，10，東京。
- 22) 田澤賢次：ストレスと友達になる。青森県弘前中央高等学校個性輝く学校づくり推進事業講演会（招請講演），1998，10，弘前。
- 23) 田澤賢次：自然治癒メカニズムからみた創傷管理。第5回秋田県大腸癌化学療法検討会総会（特別講演），1998，11，秋田。
- 24) 田澤賢次：我が国におけるストーマリハビリテーション。秋田大学医療技術短期大学部特別講義，1998，11，秋田。
- 25) 田澤賢次：自然順応型の食生活のあり方。第75回キッチン・キトサン協会定例研修会（特別講演），1998，12，富士。
- 26) 川西千恵美：看護研究とは。砺波総合病院看護部研修会，1998，8，砺波。
- 27) 川西千恵美：事例研究とは。厚生連滑川病院看護部研修会，1998，9，滑川。
- 28) 大上英夫，山崎一麿，南村哲司，山本克弥，勝山新弥，竹森 繁，新井英樹，坂本 隆，塚田一博，田澤賢次：直腸上部癌と下部直腸癌の臨床的検討。第48回大腸癌研究会，1998，1，鹿児島。
- 29) 山本克弥，田澤賢次，佐伯俊雄，増子 洋，Dilson Pereira：ニトロソグリセリン軟膏による裂肛の治療。第21回富山医科薬科大学第2外科集談会，1998，2，富山。
- 30) 大上英夫，新井英樹，山崎一麿，岡本政広，南村哲司，竹森 繁，坂本 隆，田澤賢次，塚田一博：上部下部直腸癌の臨床病理学的検討。第240回北陸外科学会，1998，5，金沢。
- 31) 大上英夫，新井英樹，山崎一麿，南村哲司，岡本政広，竹森 繁，坂本 隆，田澤賢次，塚田一博：クローン病の最近の外科治療。第5回富山県IBD研究会，1998，6，富山。
- 32) Arai H., Tazawa K., Takemori S., Minamimura T., Ohkami H., Okamoto M., Yamamoto K. and Yamazaki K.: Smooth muscle implanted neoanus-operation with the preservation of subcutaneous part of external anal sphincter. The 3rd Conference on Colorectal and Anal Function by Juniors, 1998, 7, Kawaguchi (Saitama).
- 33) 八塚美樹，安田智美，小林祐子，半明敬子，田中愛子，川西千恵美，田澤賢次，竹森 繁，新井英樹：皮膚保護剤貼付部の皮膚温度および血流量の変化—特に皮膚保護剤による皮膚反応の違い—。第14回北陸ストーマ研究会，1998，9，金沢。
- 34) 水上由紀，安田智美，八塚美樹，小林祐子，伊藤佳代子，小池 潤，高柳智子，笹野京子，川西千恵美，田澤賢次，中林千代子：各種皮膚保護剤の物性と機能の研究—特にpH値，緩衝作用について—。第14回北陸ストーマ研究会，1998，9，金沢。
- 35) 小林祐子，安田智美，村越里枝子：緩和ケア病棟における排泄援助に対する一考察—患者の希望により尿道カテーテルを留置せず最後を迎えた症例—。第8回山形県ターミナル研究会，1998，9，山形。
- 36) 大上英夫，新井英樹，吉野友康，山崎一麿，南村哲司，岡本政広，霜田光義，竹森 繁，坂本隆，塚田一博，田澤賢次，石井陽子，若木邦彦：皮膚転移巣から診断された直腸カルチノイドの一例。第1回北陸大腸癌研究会，1998，9，金沢。
- 37) 竹森 繁，南村哲司，山崎一麿，岡本政広，新井英樹，坂本 隆，塚田一博，田澤賢次：肝転移予防のための術中OK432門注・MMC腹腔内投与における細胞性免疫の影響。第23回制癌問題研究会，1998，11，金沢。
- 38) 大上英夫，山崎一麿，岡本政広，南村哲司，竹森 繁，新井英樹，坂本 隆，塚田一博，田澤賢次：2cm以下進行大腸癌の検討。第14回北陸大腸疾患研究会，1998，11，金沢。
- 39) 小林祐子：死後の入浴援助を考える—ある緩和ケア病棟での取り組みを通して—。第22回日本死の臨床研究会，1998，11，佐賀。